

山口県大島防災センターだより

山口県大島防災センター 〒742-2301 山口県大島郡周防大島町大字久賀5066-5 TEL0820-79-1133

第17号
平成24年9月

地震災害の発生に備えて、皆さん1人1人が日頃から防災・減災に関心を持つことにより、いざという時に「自分自身を守り、家族を守る」ことにつながります。

津波から避難する6つのポイント

① 地震の揺れの程度で自ら判断しない

強い地震や、弱い地震でも長時間の揺れを感じた時、また津波の危険地域では、小さい揺れでも、揺れを感じなくても、津波警報が発表されたら、まずは避難を最優先にしましょう。

明治三陸地震津波(1896年)では、沿岸で震度3程度だったにも関わらず、大津波が押し寄せました。



② 避難の時に車は、なるべく使わない

渋滞や道路陥没、家屋の倒壊などによって避難行動が妨げられる可能性が高いため、徒歩で避難しましょう。

北海道南西沖地震(1993年)の際、奥尻島では車で避難する人が多く、道路が渋滞してしまい、津波に飲み込まれて命を落とされた方が多数おられました。



③ 避難場所、避難経路を知っておくこと

避難しなければならない状況にいつ遭遇するかわかりません。

その時になって慌てないように、普段から避難場所や避難経路を家族で確認しておきましょう。

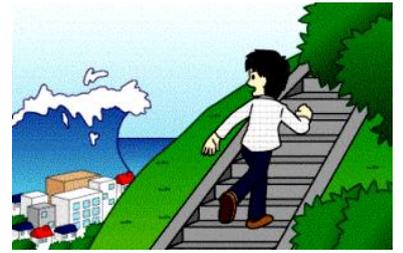
安全を確保しながら家族との早めの再会を果たしたいですね。



④ 遠くよりも高い場所へ

すでに浸水が始まってしまった場合などは、思うように避難できないことが予測されます。そんな時は、遠くよりも高い場所へ。

(例) ビルなど鉄筋コンクリート造りで3階建て以上の建物の3階以上に避難しましょう。



⑤ 避難の際、隣近所への声かけ

自分が危険を察知しても、隣近所の方が気づいていないことも考えられます。

大きな声で呼びかけ、お年寄りや身体の不自由な人など自力で避難することが難しい人がいたら、可能な限り避難の手助けをしましょう。



⑥ 俗説を信じない

避難の際、情報は大変重要なものです。根拠のない俗説や、デマ情報に惑わされないように、ラジオ・テレビ・防災行政無線などからの正しい情報を元に、危険を回避し、落ち着いて避難をしましょう。

日本海中部地震(1983年)では、日本海では津波はない、という俗説が伝えられており、住民に津波への警戒心が足りなかったために、浜辺に遠足に来ていた小学生達が津波にさらわれてしまいました。



7月、8月 見学団体

来館者紹介

宇部市万倉校区まちづくりサークル
福山きゅうり出荷組合
久賀小学校2年生
周防大島町小中校長会
山口市大殿民生委員児童委員協議会
周南市新南陽連合自治会和田支部
岩国市祖生自治会長連合協議会
新南陽地区川崎東、西自治会
周防大島町社会福祉協議会
周防大島町民生委員児童委員協議会
柳井市社会福祉協議会
コープ山口周東センター

大島西瀬戸自治会
地家室自治会
周防大島高校(久賀)
戸田西浜自治会
(出前講座)